

花宿り

蓬澤杏奈

頬をつたい、首を柔く締め上げる雫が花びらになりましたなら
哀しみも愛せるようになるでしょうか

あなたを濡らし、その胸に染み込む雫が花びらになりましたなら

この世の悲哀も美しいと言えるようになるでしょうか

誰のためとも知れずしたたる静謐な音の中で

わたしの枯れた傘をかたむける相手があなたであつたなら

どれほどわたしは報われたでしょう

わたしの身勝手な絶望があなたの上に降りそそぎ

あなたのはにかみがわたしの夜を覆つたら

こんな味のついた諦念も意味をもつでしょうか

音なく熱くただ流れる雨の隙間に

わたしはあなたと花宿り